

## 第22回総合医学賞入賞論文決定

「胃と腸」からは「腸の潰瘍性病変に関する新しい提案」の八尾恒良先生らに



第22回総合医学賞入賞論文は、例年通り、昨年1月から12月までの医学書院発行の原著論文収載誌から選ばれた14篇が決定した。

「胃と腸」からは、八尾恒良先生らの「腸の潰瘍性病変に関する新しい提案」＜第7巻第12号＞が受賞し、贈呈式が7月20日午後6時から、東京赤坂のホテル・オークラで開かれた。入賞14論文に対してそれぞれ賞状、賞金、賞牌および副賞が贈呈され、式終了後引き続いて行なわれた祝賀パーティーでは選考委員、来賓多数が受賞者をかこみ、新しい研究をめぐるの歓談が続いた。

総合医学賞は本誌に掲載された原著論文の中から編集委員会により年間最優秀論文を一篇選ぶもので、毎回すぐれた入賞論文を世に送り出して来た。

なお「胃と腸」の最近の総合医学賞受賞論文と受賞者は下記の通りです。

慢性胃炎の病理組織像—臨床面との関連を重視して

＜第2巻10号＞ 平福一郎

IIa と異型上皮早期胃癌の問題点

＜第3巻1号＞ 高木国夫

早期胃癌の内視鏡診断に際しての癌深達度の推定と胃癌の進展過程に関する内視鏡的考察

＜第4巻3号＞ 奥田 茂・他

高位の胃癌の組織発生

＜第5巻9号＞ 中村恭一

ポリープ癌およびポリポイド癌—隆起性早期胃癌の成り立ちについて

＜第6巻1号＞

武藤徹一郎・土地邦和

(写真は、受賞する八尾先生)